

吉野復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録
(平成30年2月18日(日) 14:56~15:00 於) 仙台国際センター)

1. 発言要旨

こんにちは。本日はここ仙台国際センターで「新しい東北」交流会を視察いたしました。

本日の交流会は、「東北の未来を共創する」をテーマに、様々な立場から復興・創生に取り組んでいる方に対して、発表や議論など行っていただきました。

また、「新しい東北」の実現に貢献をしていただいた方の顕彰、これは「新しい東北」復興・創生顕彰と呼ばせていただきます。また、ビジネスの分野ですばらしい取組、産業復興事例集の顕彰も行ったところでございます。

今後の被災地の復興のためには、企業やNPO、大学など民間の方々の取組が、そして、互いに連携し、共に創る「共創の力」が極めて重要である、このように思ったところです。

復興庁といたしましても、引き続き皆様の「共創の力」を生かして、被災地の復興・創生に向けた取組が持続的で広がりのあるものとなるよう、支援をしてまいります。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日はいろんな企業の方からプレゼンテーションなどがありましたけれども、どんな印象を受けましたか。

(答) 東北の復興に対して、企業、学生さん等々、それぞれ自分の視点から、いろんな角度から御支援を頂いているということで、このような見方もあるんだなと、改めて感じたところです。

私も被災を受けている者の一人として、そういう視点もあるんだなと、そんなことを感じました。

(問) 関連してなんですけれども、被災地の取組が全国に広がっていけばいいという狙いのところが復興・創生顕彰だと思いますけれども、企業にどんなふうになってほしいなと思いますか。

(答) 企業もそうですけどね、学生さんの中できつかけ食堂、京都の学生さんが毎日11日に被災地の食材を使って、食堂を開いてくれている。このことは特に、風評被害払拭のためにも本当に大事なところで、被災地には来なくても、遠くの地で被災地を思っているという、本当に感動し、感謝し、改めて頭が下がるところです。

(問) あと、取材している関係で伺いたいんですけども、障害者の方が高齢者の老人ホームと一緒にやっというプレ

ゼン、ありましたけれども、この取組を聞いていかがでしたか。

(答) 「愛さんさんグループ」の方ですけど、本当に素晴らしい。障害者の方々が仕事を持つということは、なかなか大変なことなんですね。でも、そういう方々でもきちんと仕事ができるわけでありますので、そこと高齢者の介護を結び付けたという、本当に素晴らしいことで、やっぱりこれからもこの仕掛けをある意味で被災地だけの雇用問題だけではなくて、全国展開になり得るシステム、仕掛けだなというふうに感じましたね。

ありがとうございます。

(以 上)